

地域活性化 京都府福知山市 「みわ・ダッシュ村」から という「遊び」 78 山本晋也

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動しながらオーガニックレストランを経営。食材調達のため畑も始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダッシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。現在みわ・ダッシュ村副村長。

おじいちゃん 見ていてくださいね

子たちのスーパーヒーローだった
そのおじいちゃんが逝ってしまった
あの見事だった粽（ちまき）の縛り方
先人の心構え、しっかり受け継いでいきます

悲 しみを表すかのような大雨。集落のおばあちゃんを乗せて葬儀場を出ると

道路が深さ20センチはあろうかというくらい冠水していました。

子たちのヒーローだった長老。

もう93歳というのに
つい先日まで

元気に山仕事されていたのですが

山仕事の途中

何かの拍子に頭を打たれたということで緊急入院。

ちょうど集落の夏祭りの日程を決めたところでみんな大慌て。でもあのスーパーおじいちゃんならきっと回復して

当日は元気にみんなで楽しくお祭りができると信じていたのですがその願いは叶いませんでした。

しかしいつまでも悲しんでばかりいるわけにもいかず

日頃神社のことをとても気にかけて掃除やお参りを

欠かさずしておられたということも思い出して

神事でもある夏祭りはやはり予定通り行なうことにしよう

おじいちゃんもきっとそれを望ん

でいる

と気持ち切り替え

祭り前日いつものように子たちと

山へ笹を採りに行きました。

しかしこの日もなぜかひどい雨。

雨の中毎年一緒に来ていたことを思い出して

涙が止まりませんでした。

採 ってきた笹を
綺麗に洗って乾かして

葉をちぎってより分けてと

おじいちゃんがやるととてもスロ

ーなのですが

仕事はとても丁寧で綺麗でした。

都会で育った

せつかな僕がやると
どこか雑で乱れていて

日常的にも

おじいちゃんの仕事を見習わなければいけないと

毎年のように思ったものです。

笹がより分けられたら

おばあちゃんたちが中に入れる団

子を捏ねている間に

シユロの葉で紐を作り

出来た団子を笹で包んでその紐で

止めます。

そうやって

出来たちまきを

20個ごとにまとめて縛り

蒸すのですが



93歳まで本当に現役だった
子たちのヒーロー。



足の悪いおばあちゃんと神社へお参りに。
階段は無理ということで昔牛が歩いたという道を上がります。



ありし日のおじいちゃんに
ビシッと縛られたちまき。

笹の茎はすべすべしてしているので
よほど力を入れて
ぎゅっと縛らないと
蒸し器に入れるときや
蒸し上がって取り出すときなどに
バラバラになってしまいます。
しかしおじいちゃんが縛ると
不思議とバラけない。
なんでだろうといつも思ってい
たのですが
子たちが中学生になった
ある年の祭りの日
当時おじいちゃんは80代。
長男はそのころ野球をやっていた
トレーニングもしていたので



移住当初のお祭りのお写真。
いつかこんな賑わいを取り戻したいですね。

自信满满々で
おじいちゃんに腕相撲を挑んだの
ですが
なんとコテンパンにやつつけられ
てしまいました。
そうです
バラけない理由は
単におじいちゃんの縛る力が強か
ったということですよ。
そういえば移住当初
他にもおじいちゃんが
おられたのですが
80歳くらいのおじいちゃんが縛る
となぜかとてもしつかりしていま
した。

60代のおじさんや僕たちが縛ると
後で緩むことが多く
その違いは歴然。
おじいちゃんたちの子供のころ
靴を持っている人はとても少なか
ったらしく
みんなわらじを履いて
どこへ行くにも歩くのは当たり前
だったそうです。
そのわらじも藁から手作り。
そのように日常手足をフルに使っ
て生きてこられたことで
脚力や握力そして忍耐力が自然と
身についたのでしょう。
今年のお祭り
足の悪い80代のおばあちゃ
んが参加されていて
境内へ上がる階段がとても急で危
ないから
お参りはやめておいたらと提案し
たのですが
歩けるうちはなんとか上がりた
とおっしゃるので
息子たちが左右前後支え
一緒にお参りしました。
もう心構えが違いますね。
そんな先人の心構え
しっかり受け継いで
この集落を
必ず残していきますので
おじいちゃん見ていてくださいね。